

シリーズ2 都市計画マスタープラン策定に向けて

暮らしやすいまちづくりのための参考書

市は、「都市計画マスタープラン（以下、マスタープラン）」の来年度策定を目指し、都市計画策定委員会（宮澤正土委員長）によって作業を進めています。今回は、先月号に引き続き、マスタープランの役割や検討状況についてお知らせします。

Q 合併前の町村にはマスタープランはありましたか？

マスタープランは、旧豊科町と旧穂高町で策定されていました。他の3町村でも土地利用に関する計画がありました。

これらの計画は、そのまま市に引き継がれるものと、見直されるものがあります。

Q マスタープランの構成は？

策定委員会が作成している案では、1章が「策定の目的・内容」、2章が「まちづくりをとりまく現状と課題の整理」、3

章が「まちづくりの目標・基本方針」、4章が「全体構想」、5章が「実現のための方策」としています。

Q 「人口減少社会」と言われますが、マスタープランでの方向性は？

全国的に人口減少時代に入り、安曇野市の人口（住民基本台帳）も昨年同期に比べ、減少しています。

このような時代を迎える中、活気あるまちづくりを目指すため、環境保全に努め、現在の市街地や集落が衰退しないような土地利用を図る必要があると

らえています。

Q マスタープランでは市の抱える課題をどうとらえていますか？

作成中の案では、「土地利用・環境・景観」「産業」「交通体系」「防災」「生活基盤」の5つに分類し、それぞれの「強み」と「今後の課題」をまとめました。

● 土地利用・環境・景観

【強み】 北アルプスに育まれた田園環境やくらしやすい環境が共存し、住んでみたいまちとして市外からも注目されている。

【課題】 土地利用に関するルールに差異があり地域ごとに不公



段が不足しており、列車運行ダイヤの利便性も低い。

● 防災

【強み】 建物密集地が比較的に少なく広々とした平たんなオープンスペース（農地を含む）が多い。

【課題】 予測不能な集中豪雨（ゲリラ豪雨）による山間地の災害や地震発生時における市街地の密集・老朽化している建築物の倒壊・延焼被害の拡大が懸念される。また、市内の東西方向の道路で、災害時の緊急輸送路に位置づけられている道路は1本のみであり不足している。

● 生活基盤

【強み】 北アルプスを背景とした農地、河畔・屋敷林の緑がさまざまな場所から眺望でき、自然環境・景観に恵まれている。

【課題】 景観などを満喫できる

Q 課題を踏まえて、今後のまちづくりの方針は？

検討中のマスタープランでは、現在の状況や課題を踏まえて、まちづくりの目標を「山岳と田園が育むよさを大切に、くらしやすさをみんなで共有できるまち」と掲げました。この目標を達成するために、5つのまちづくりの基本方針を検討しています。詳しい内容は、11月号で紹介いたします。

◆ 皆さまの素朴な疑問をお待ちしています。お問い合わせは、ファクス・メール・電話などでお気軽にどうぞ・・・

国土科総合支所内都市計画課 計画係

TEL 72・3111 FAX 72・3569
 ✉ toshikeikaku@city.azumino.nagano.jp



平感があることや、無秩序な農地の開発により都市基盤整備が不効率になっている。また、市の財産である自然環境や景観の悪化がみられる。

● 産業

【強み】 工業出荷額は県内有数であり、地域資源を生かした特色ある産業が立地しています。

4万9,168メートル

ミニコラム② あんな数字・こんな数字？

この数字は、市内の「都市計画道路」の延長です。都市計画道路は、都市の基盤的施設として、都市計画法に基づき計画決定された道路です。都市計画道路は、一部を除き昭和30年代に用途地域内やその周辺で決定され、整備が行われてきましたが、整備率は30%弱にとどまっています。長期にわたって整備が進まなかった理由としては「多くの住宅移転等が伴う道路では、事業費が多額になり調整に手間がかかる」「交通機能の変化により補完する代替の道路整備を優先する」「計画道路であっても当面必要な整備（歩道設置など）のみにとどめる」などさまざまな要因が挙げられます。マスタープランでは、都市計画道路の見直しを行っていくことを明記する予定です。